

---

## つくばみらい市立豊小学校区における意見交換会

《 平成28年12月15日(木)午後7時00分～ 豊小学校体育館 》

---

### 1. あいさつ

### 2. これまでの経緯について

### 3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について

### 4. 今後の進め方について

事務局： それでは、2. これまでの経緯、3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について、4. 今後の進め方について、を事務局よりご説明いたします。

《事務局より資料の説明》

### 5. 質疑・ご意見等

事務局： それでは、質問等やご意見を頂きながら意見交換をしていきたいと思っておりますので、ご質問等ございましたら、挙手のほどよろしくお願ひいたします。

市民： 先月、事務局にPTAでとった統廃合についてのアンケートの結果をお渡しした。このアンケートはPTA総会の時来て頂いたPTA保護者を対象に、賛成か反対かを聞いたもの。出席者の約半数に提出頂き、賛成が2、反対が23、どちらでもないが12となった。その結果は一度目を通されたのか、また、その上でどう受け止めているのか。

事務局： 当然の結果であると思っている。先ほど冒頭に申し上げた通り、豊小の場合は複式が発生しておらず、1学級20人程度という数字もほぼ確保している。初めに申し上げた通り、これはあくまでも計画。資料に谷井田小、三島小、豊小の推移があるが、谷井田小はかなりの勢いで少子化が進んでおり、あと5、6年した時に、適正な規模である学校には入らなくなる。しかし、この3校が集まれば適正規模となる。1学年の人数が少なくとも、片方の学年人数が多ければ複式にはならない。また、生活面では、どの学校も人間関係が固定化しやすく、男女関係がうまくいっていない。本校も5年生の女子が11:4ぐらいの割合で少ない。実際に、学年を超えて交流をする、いじめをなくそうフォーラム等、色々な取組を行っているが、もう少し人数がいたほうが、出来ることの幅が広がるなとも思う。保護者の皆さまには、今の豊小学校の子どもたちがそんなに困っているように見えないのかなと思う。今回の結果について、思いがけない数値とは思っていない。

市民： 児童数が減っているからどうしようと言う前に、つくばみらい市として人口増加の対策をしてきたのか。豊小学校の地区は守谷駅が近く、家が建てられる状況であれば、どんどん建つと思う。そのような状況なので、住宅が建てられるような対策も出来たと思う。

事務局： 本来ならば、前々から区画整理を進めて宅地開発事業を行えば、人口も減らずに済んだかもしれない。ただ、この地区は農業振興地域で水田なので、開発がなかなか難しいと聞いて

いる。我々教育委員会としては、子どもたちになんとか良い環境で小・中学校の生活を送って頂きたい、という一心で計画を進めている。仮に、今から守谷地区のように区画整理を行い、人口を将来的に増やしていこうと考えた場合、少なくとも20年近くはかかると思われる。その20年後も、宅地がきちんと売れるかどうかは非常に難しい状況だと思う。20年後までこのままの状態でもいいのかどうか、みんなで話し合っ、谷井田小、三島小と一緒にになり、新しい小学校をつくっていったほうがいいのではないかと考えている。

市 民： 豊小の単学級は30年近く続いており、今に始まったわけではない。入学予定の保護者も当然1クラスだと思って入ってくる。理想を言えばきりがないと思う。地域の実情を考慮して、1クラス20人、120人規模なら残す等、どのような形で判断をなさっているのか。

事務局： 単学級で認めるかどうか、それから、今回豊小学校でアンケート調査をして頂いたということだが、これからどうなっていければいいのかを、子どもたちを中心に皆で話し合いを進めていきたい。今回は、地域の人を含めた上で、これから皆さんと話し合っ、というスタートライン。今後は、PTAの方々と意見を交わしながら、一つひとつの疑問や不安などを克服していき、最終的に統合すべきか、存続すべきかということ、もう少し話し合いを進めた上で、結果的に反対ということであればやむを得ないとも思う。

市 民： ありがとうございます。勿論、こういう場では反対の声しかあがってこないと思う。時間もないので、細かく会を開いて頂ければと思う。

市 民： 豊小に通学している児童の保護者だが、昨年の説明会に参加し、スクールバスの件などを質問させて頂いた。今回、市内6小学校にするというのは決定ではないという事なので、一つ提案させて頂く。陽光台地区の人数が増えていき富士見ヶ丘小学校が出来ると言うことであれば、万が一、予定人数を超えて二つの小学校では足りないという場合に、豊小学校と小張小学校と合併するという案はないのか。小張小の推移をみると、人数が減ってしまい、恐らく複式になってしまう。数年前の児童クラブでも、豊小に小張小の子が来てらっしゃったので馴染みもある。また、陽光台小に通っているお子さんで、いきなり人数が増えた結果、ストレスでおねしょをした子が数名いると聞いた。豊小が統合し、いきなり大人数になった時に子どもたちがストレスを抱えないかが心配。ストレス解消のためには、いきなり大きな学校ではなく、豊小を残す形で小張小と豊小で統合して頂きたい。小張小の方には申し訳ないですが、市の方でスクールバス等対応して頂ければと思う。あくまで私個人の提案ですが、検討頂きたい。

事務局： (仮称) 富士見ヶ丘小学校も平成30年4月に開校する予定で進めているが、もっと人口が増えた時に、二つの小学校で足りるのか、そして近くの小張小学校は、複式学級になってしまうかもしれない。ただ、小張地区と陽光台地区は地続きになっており、非常に難しいところ。隣り合った家でも、片方は陽光台、片方は小張というようになっており、若干問題がある。やはり、我々の考え方としては、近くの学校で統合をし、新しい学校をつくっていく方が良くはないかということ。審議会の中で検討して頂いており、それを踏襲する形で市も行おうとしている。それからどの地区も旧市町村の区分で学区を決めていた歴史があるので、小張地区でも豊小に近い人、豊地区でも谷井田に近い人もいる等、見直すところはたくさんある。今の段階では、皆さんと話し合いをしながら進めていきたい。出来れば、三島

小と谷井田小と豊小で新しい小学校をつくっていただければと思う。

市 民： 小張小と陽光台小が近所という話をされていたが、富士見ヶ丘小学校が出来る時点で、近所とか関係なく線引きをして地区を分けるのだと思っていた。そういうことではないのか。例えば、この道路より南側は豊地区である等。現在、陽光台に通っている方は、地区が決まっていない状態だと思うが、富士見ヶ丘小学校が出来た時点で線引きする予定はないのか。

事務局： 平成30年の富士見ヶ丘開校にあたり、学区について、現在、学区審議会を開催し、検討している状況。3月までには学区審議会の中で、諮問・答申という形で進めて行く予定。結論は出てないが、自由学区というわけではなく、ラインで引いていく形になると思う。

市 民： 線引きされた結果が出た場合、小張小の中でも豊小に通う方も出てくると思うので、今すぐというわけではないが、豊小と小張小を統合するという案も検討していただきたい。

事務局： 小張小は5, 60名で豊小は110名程度、合わせて160名ほどの学校となるので、出来れば、クラス替えが可能な学校の方が良いのかなと思う。先ほどの話にも出たが、男女比の関係や、いじめ等はどこの学校にもおこりうることなので、その場合にも、クラス替えが出来ればある程度は回避出来ることができると思う。我々としては、出来る限り2クラス以上を目標にしていきたいと考えている。昔から単学級だったとの意見もあったが、出来ればクラス替えが出来る方がよいのかなと思う。なるべく子どもたちにとって良い環境になるように、みんな考えていただければと思う。

事務局： 補足して、近隣の市町村では義務教育学校というのがある。例えば、つくば市の春日学園。統廃合が進んだ市町村では、そういった大きな小中一貫校をつくらうと進めている。つくば市では、さらに筑波山の麓に2つの中学校と7, 8つの小学校を合わせた大規模な小中一貫校をつくる計画もあるようだ。本市では、県内でもわりと先駆けして小中一貫の取組を始めしており、伊奈中を中心に豊, 小張, 三島, 谷井田の5校が協力し合って、小学校から9年間子どもたちを育てていこうという色々な取組を行っている。先生方がお互いに行き来して授業を見学したり、中学校の先生が小学校に出向いて専門的な授業をする。また、一緒にあいさつ運動を行うなど。昔とは環境が違い、スマートフォン等で簡単に情報が得られる時代。これから生きていく子どもたちのために、小さい頃から色々な体験をさせて、今の時代を生きていくのに必要な力をつけさせてあげたい。そこを突き詰めていくと統廃合の話と捉えられてしまうが、これから豊小を卒業する子、そして入学する子等、今まさに目の前に子どもたちがいるので、将来のこととして捉えるのではなく、今の子どもたちに必要な力を学んでいくためには、どういうところで学ばせるのが良いか、そして私たちに出来ることは何かを考え、子どもたちにとってのデメリットを少しでも解消させたい。大きな学校では教科担任制というのが始まっている。理科の先生は理科の授業を行うというようなもの。小さな学校でも、そのような良い部分を取り入れていただければと思う。互いの学校に行き来しあうのも良いと思う。そういうところを含め、子どもたちのために一緒に話し合ってもらえればと思う。

市 民： 資料2の4ページの4(2)適正配置の時期についての中に、「地域の合意が得られたところから順次進めていきます」と書いてあるが、もしこの地区で合意が得られなかった場合、平成32年より遅れるということか。

事務局：平成32年というのは予定として示している。色々なご意見があると思うので、一つひとつ課題をクリアしていきながら進めていきたいと考えている。一つひとつ解決していく上で、それが早いか遅いかで順番が入れ替わることもあると思う。

市民：そうすると、昨年に私が質問したスクールバスの無料化・有料化ということに対し、市はこの1年間どのような対策をしてきたのか。

事務局：申し訳ないが、スクールバスの無料化・有料化については、まだ結論は出ていない。この件については市の財政的な部分に関わるので、ここでは無料化・有料化についてはお答え出来ない。

市民：中学校というのは国で義務教育と決まっている。出来るならば、義務教育の間は交通費はかからない方向で考えていただきたい。

事務局：ご意見として頂く。

事務局：スクールバスを出すにしても、どのルートを通るか、子どもたちは何分ぐらい利用するのか、バス停はどこにつくるのか、乗車人数によっても大きさや台数が変わってくるし、要望も出てくると思う。そういう細かいところを含めて、皆さんと一緒に地図等を見ながら話し合いをしていきたいと思う。

市民：今回の話の中で、ポイントを分けて話をしないとわかりにくいと思った。ここに出席されている方だと、地域の豊小OBの方々、現在豊小に子どもを預けている保護者、そして将来的に豊小に子どもを預ける予定の保護者、現在通っている子ども、また将来統合した学校に通う予定の子ども。それぞれの立場の話があると思うが、今日は主に子どもの学校内のメリット・デメリットについてお話しいただいた。豊小のOBである私の考えとしては、豊小学校に通わせるという意識で、子どもが小学校一年生になるのを機につくばみらい市に戻ってきたが、お話をうかがっている中では、統合した学校に通わせた方が子どもにとってメリットもあると感じた。ただ、地域のOB及び保護者、そして学校の教育外でのメリット・デメリットが全くないので、どういう考えがあるのかビジョンが見えず、我々としては不安になる。自分にとってのデメリットが付いてしまうので反対意見が多くなっているのだと思う。その部分を交え、考えを広くして話し合いをしないと、最終的には教育にかかわるという大義名分のもとにうやむやとなり、賛成意見が少ないような中で決議されてしまうかと思う。この件に関して広く考えて頂きたい。

事務局：昨年と今回で2回の開催となりましたが、昨年と同じように地域の皆さまをお招きしての意見交換会という形で開催している。今後については、PTA、豊小学校に通う予定の未就学児の保護者、卒業生、それぞれの立場でのご意見をお持ちかと思うので、今の規模よりも限定した話し合いや、全体的な話し合いをしながら進めて行くことが、皆さまの意見を吸い上げやすいのではないかと考えている。

市民：それでは、その時に市から市民に対しての行政サービスの一環として、市が出来るようなアドバイス、提案を出して頂けると話し合いがスムーズに進むと思う。統廃合によっての市のメリット・デメリットがあるかわからないが、例えば、小学校の数が変わることによって税金の回せる場所が変わる、メリットとしては無料でスクールバスも出せる可能性があるというような、我々がその中から選べるような案があるというのを、提示して頂けると考えも

広がる。意見を吸い上げるのは結構だが、市の方からも、それぞれの立場の方にとってのメリット・デメリットを話して頂けるとわかりやすいと思う。

事務局：これから行う説明会や意見交換会につきましても、一度や二度で済むとは考えていない。その中で、我々が皆さんにこういうことが出来るよという話をしていく予定ではあるが、やはり皆さんの要望について話し合い、解決しながら前向きに進めて行ければと考えている。

勿論、豊地区には立場が違う人が住んでいらっしゃる。ただ、我々としては、大きく二つに分けていきたいと思っている。一つは現在豊小に通っている子をもつ保護者の方、そしてこれから通おうとしている保護者の方。これは同じ人たち。まずはその保護者の方の子どもたちのために、なんとか良い方向へと持っていけるように、その部分として話し合いをしていきたい。我々としては保護者と共に一番に話し合いをすべきだと考えている。

そして、地域の方々。保護者ではないが卒業をしている人、地区に住んでいるの方々。地域の方々にとっての豊小の位置付けは何であるのか。卒業した母校なので無くなるのが嫌であるとか、そうではなくて、文化祭や運動会を楽しみにしており、一緒に応援するのが良いから無くなるのが嫌である等、色々な意見があると思う。よく、小学校は地域の核とか色々言われているが、それをなんとか維持出来るように、違った形でも維持出来るかどうかというのを、地域の皆さんと話し合っていかなければならないのかなと思う。今回はスタート地点なので、地域の方々から全員に声をかけて話し合いをし、こういう方向で進みたいということ投げかけて、今後は保護者の方々と何度も何度も話し合いを進めていきたい。

市民：豊小学校2年生の保護者だが、資料を拝見させて頂いて、昨年の説明会と変わっていない印象を受けた。反対の立場から意見を言わせて頂くが、特に心配しているのが遠距離通学になってしまうこと。家から谷井田小までは2.8kmであり、スクールバスが利用出来ないのではないかと、ということが1つ。それと資料に「通学路の安全を確保して環境保全等を図ります」という文章があるが、それに対する具体的な案がまったくない。平成32年に統合するのであれば、どこを通るか、また、通る道を舗装し歩道を確保するなど、具体的な案を提案して頂かないとなかなか話し合いをする段階までいけないのではないかなと思う。やはり、遠距離通学は保護者と子どもにとってのデメリット。今は豊小まで10分ぐらいの近距離だが、それでも朝送り出す時に無事に帰ってきてほしいと思いながら送り出している。この資料だと、通る道がわからない、安全が確保されているかもわからない。前回とほとんど変わっていないので、話し合いをしようと思っても難しい。通学路の案等、少しでも具体的な案を次回は提示してほしい。

そして、小規模化のメリットと大規模化のデメリットについて。小規模化のメリットとしては、一人ひとりの状況に目が届きやすく、先生方がよく見て下さるので、今は安心して通わせられている。ただ、大規模校のデメリットを見ると、生徒一人ひとりの把握が難しくなるので、とても心配。それをどのように補っていくのか。クラス替えが出来るから良いという意見もあったが、一人ひとりに目が届きにくくなるというデメリットについても、何か検討してほしいと思う。

事務局：ここに書いているデメリット・メリットは一般的に見てのもの。大規模化のデメリットと言うのは、その学校の工夫や努力で改善していくことが出来るが、小規模化のデメリットの

対策は相当頑張っても難しいことがある。特にデメリット部分については市内の小学校、大規模校、小規模校であれ、なんとかクリアしようと努力しているし、実際今、私から見ても大丈夫かなと思う。

事務局： 通学路も車の台数が多いところや歩道がないところ等、非常に心配。このような不安を解消するためには、皆で同じ立場に立ち、保護者の方と一緒に話し合っていくしかない。通学路の整備についても、行政が主導権を握って、「この学校は統合するので、ここの集落の人はここを通ってください。そのために道路を拡張します」と市が強制的に決めるのもある部分ではいいと思うが、今後集落によっても、例えば大きな集落だと通学路を決める際に、どこがいいかなど、意見がでてくると思う。今回の統合の件についても、どこを歩いていけばいいのか、バスの人はどう通うか、みんなで話し合っていかなければ決められないと思う。それから、その整備に向けてお金を使っていくという形になると思う。スクールバス通学の適用距離も目安として、国では4km、市では3kmと言っているが、その辺は皆さんが納得出来るような形で進めていきたい。それらのことも含め、子どもたちのために思って、話し合いを進めていきたい。

市民： 今の回答についての質問だが、前回、他の保護者の方からもスクールバスについて質問があった際に、ほぼ同じような回答だったと記憶している。お互いに意見を交換しながらと言うが、毎度毎度同じような回答では時間の無駄に近い。欲しいのは、どのようなメリットが我々にあるのか、通学する子どもにとってどのようなメリットがあるのか。それを提示してもらえればもっとわかりやすいと思う。前回いくつか質問にあった部分についても、同じように資料を作成し、現状このような整備を進めている、今後このような整備が可能という具体的なメリットを示して頂かないと、議論がそれ以上広がらないと思う。次回の話し合いの際には、保護者の立場からそういった回答をして頂きたい。

市民： 今の質問に補足をさせて頂くが、スクールバスについて質問の回答は昨年とほとんど変わらずガッカリしている。また、先ほどの説明に、地区の危ない箇所に緑色のペンキを塗って注意喚起だとか、歩道に柵が出来たとあったが、そういったことは豊小学校の校長先生に話しているのか、本部に話がいつているのか。私は本部にいるが初耳だった。どの方に話を進んでいるのか疑問に思ったので、教えて頂きたい。

事務局： たしか平成26年度だったと思うが、歩道が無い道路の計画を立てた時、その計画時の豊小のPTA会長さん、当時の教頭先生もしくは校長先生、地域の民生委員さん等に話を聞いて、図面に危ない箇所を示してもらったり、皆で現場に行き確認したりしてもらい、そういった危険箇所をまとめたものが歩道整備基本計画となり、計146カ所を整備しようとなった。その中で、歩道をつくりたくてもつけれない場所もあるし、また、つくろうとしても時間がかかってしまうということがあったので、そういうところについては、緑色に塗ったり、赤色のポールをたてたり、カーブミラーを設置したり、信号機をつくるなど色々な取組をしてきた。今後、新しい学校で通学路が変わるのであれば、それがまるっきり変わってしまう。建設課に整備していただくことになると思うが、その前に、通学路はどうするか、図面を持ち寄り安全箇所を確認しながら、我々主体ではなく、皆で話し合っていければいいと思う。

昨年は計画をつくるために、審議会から答申を頂いた。それを以て、説明会を開催し、皆

の意見を吸い上げ、今回計画書が出来上がってきたところ。今回の説明会は、その審議会で答申を頂いてそれに従って計画を決めたということと、今後は資料の7ページの市全体の統合の進め方に沿って、スケジュールで進めていきたいということを地区の方々にお知らせするため、現在各学校を回っているという状況。特に豊小、三島小、谷井田小はPTAの方々と意思をもって、細かい点を話し合ってもらうスタートということでご理解をして頂ければと思う。

市 民： 谷井田小、三島小、豊小は平成32年度に統合予定だが、同じ時期に3つの小学校が統合しなければいけないのか。例えば、豊小はもう少しあとから統合という考えはなかったのか。

事務局： 3つ一緒の方が良いのかなと思う。例えば、いまは谷井田小学校という名前だが、三島小と豊小と3校が統合する際には、新しい学校名にしていこうとなると思う。結果的にそれぞれが必要な時に合併するというような、例えば谷井田と三島で新しい学校になり、あとから豊小が入ってくるとなった場合に、各学校がそれぞれ了解した上でそうなれば問題がないと思うが、その辺についても皆さんで話し合いながら進めていき、話し合った結果一緒に統合した方が良く、やはり統合まで時間がほしい、といった結論になるのかなと思う。

市 民： 統廃合について、市としての希望年度が平成32年度ということで、あと3年しかない。先ほど色々話が出たが、もし統合が避けられないとしたら、統合されたときの通学路や、また、豊小は天候悪い時は車で送迎している保護者が多いので、3校統合した時の送迎の車の停める場所だとか、具体的に色々市としてどう考えているかというものを出示してもらわないと、こちらも曖昧な意見しか出せない。市として豊地区に即したメリット・デメリット、通学路のメリット・デメリット等、具体的な話を持ってきて頂けるとスムーズに進み、実のあるものになるのではないかなと思う。あと3年という短い期間の間に、どれぐらいそちらからの説明会、話し合いがあるのか。どのようなスパンで進めていくのが気になるので、スケジュールを示してほしい。

事務局： ただいまの車での送迎の件や、ご指摘を頂いた部分については、解決出来るかどうかはこれから検討していかなければならないと思う。それから、3年の間にどのようなスパンで進めていくかというお話については、問題解決に向けた話し合いについては、早まれば月に1、2度開催していかなければならないと思う。

市 民： そうしましたら、課題となるものの提示と、それに伴っての具体的な意見の交換会が出来るようにお膳立てをして頂けると出席しやすい上、何が話し合いになるのか事前に思い描いて参加出来るので、その辺りを次回に向けて考えて頂ければと思う。

事務局： 今後どの程度の頻度でという話だが、市としては、今は東小学校の複式学級の解決に向けての話し合いを優先に進め、豊小学校の統廃合に向けてはこれから話し合っていきたいと思っている。あと3年しかないということで、先ほど月1回、2回と言ったが、今この場では、次はいつにあるとは言えない。保護者の皆さまとの意見交換会は早めに実施したいと思っている。進捗状況に応じて、PTA役員の皆さんとお話をして、このような場を設けたいと思っている。次回は、もう少し踏み込んだ具体案を提示させて頂ければと思います。

## 6. 閉会

事務局： 本日は長時間にわたりまして、大変貴重なご意見等をありがとうございました。以上をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

**以上**